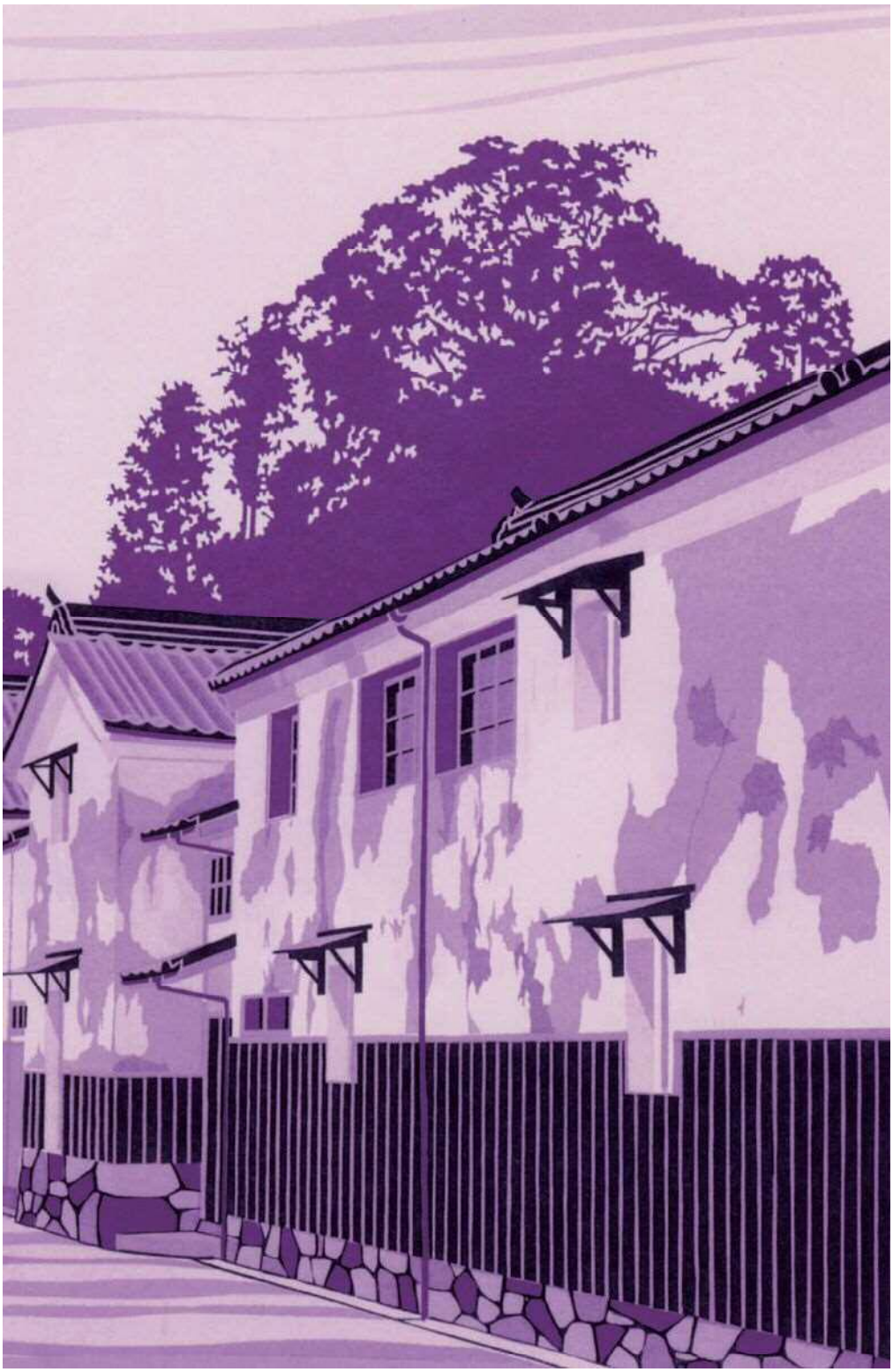
いしづち

2016.7

No.111

公益社団法人 愛媛県建築士会
http://www.ehime-shikai.com



故きをたずねて　善光寺薬師堂（北宇和郡鬼北町小松）
自然と家とにんげんと　生かすことで生かされる
雑想　光る石

ISHIZUCHI
Ehimeken kenchikushikai
2016 7
JUNE No.111

CONTENTS

1	会長就任挨拶		会　長　寺尾　保仁	……①
2	故きをたずねて	第6回　善光寺薬師堂（北宇和郡鬼北町小松）	文化財・まちづくり委員会委員長　花岡　直樹	……②
3	光のはなし	反射率から内装材をみる	宮地電機株式会社　照明・LED担当室　田部　泉	……③
4	竹のはなし	竹の七不思議（その1）	山田竹材　山田　清昭	……④
5	自然と家とにんげんと	生かすことで生かされる	今治支部　橋詰　飛香	……⑤
6	くさぐさの風景	山野草の女王（山芍薬）～イワガラミ	松山支部　安藤　雅人	……⑥
7	雑想	光る石	松山支部　玉乃井公和	……⑦
8	支部報告	平成28年度　愛媛県建築士会松山支部、理事会・通常総会報告	松山支部支部長　赤根　良忠	……⑨
9	委員会報告	「建築と雨水活用の可能性」を考えるセミナー報告	女性委員長　大塚美由紀	……⑩
		文化財街づくり委員会研修旅行　重要文化財安岡家住宅の保存修理現場の見学 .他	文化財・まちづくり委員　峰岡　秀和	……⑪
10	けんちくの輪	わかくさ珈琲	今治支部　叶　貴美	……⑬
		結局は、自己紹介です。	松山支部　岸　孝徳	……⑭
11	自遊自在	遙かなる日本百名山　近くて遠かった、屋久島宮之浦岳	西予支部　松山　清	……⑮
12	お知らせ	第1回理事会報告	事務局	……⑯
		新広報委員紹介		……⑱
		編集後記		……⑲

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

版画
題：「おおずまち」
山田 きよ
［表紙の版画について］
大洲のおはなはん通りに並ぶ古い屋敷。漆喰の土壁がハガレ落ちている旧家があるが、絵を描く人にとっては格好のモチーフである。
背後には大洲神社の大樹が枝を四方に広げ、城下町の風情をさらに感じさせるため紫色の濃淡で渋く表現してみた。

表紙作者　山田　きよ　プロフィール

1959 喜多郡五十崎町（現内子町）に生まれる
1980 松山デザイン専門学校卒業
1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く
1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作以後、内子町内子座や大凧合戦のポスターを手がける
1993 初の個展
2003 愛媛県文化協会奨励賞
2012 個展回数が 100 回となる

（本名　山田 清昭　内子町在住）

会長就任挨拶

会長　寺尾　保仁

この度引き続き２年間、会長に就任させて頂く事になりました四国中央支部の寺尾保仁です。どうかよろしくお願い致します。前任期中は皆様のご協力を頂きまして、会長の職を無事務めさせて頂き有難うございました。また、熊本地震の際には応急危険度判定士召集、派遣のご協力を頂きまして重ねて御礼申し上げます。

公益社団法人に移行して３年目となります。今年度から皆様ご承知かと思いますが、行政協力の一環として愛媛県下において木造耐震診断技術者派遣事業を行っております。現在のところ、熊本地震の影響もあり多くの依頼が来ており一層の会員の方々のご協力をお願いしたいと思っております。また　文化財保護、伝統技術の伝承という観点から　歴史的建造物保全活用資格者（ヘリテージマネージャー）養成講座を実施しており、本年度はすでに応募予定数を上回る参加を頂きましたことにお礼を申し上げます。本会建築士会館につきましても、耐震不足の解消に向けて近々取り組みたいと思っております。

総会におきまして、来年度よりの会費の値上げをお願い致しましたが、ご説明させて頂いた通り長年改善に努力致しましたが、皆様にご協力をお願いする結果となりました。建築士会は、建築士法第２２条の４「建築士会及び建築士会連合会は、建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するための会員の指導及び連絡に関する事務を行う事を目的とする」と有ります。皆様の負担増加につきましては、今後行います講習会、勉強会、活動に参加して頂く事で、皆様に還元できるように努力致します。ますます会員相互の研鑽を積む機会を増やし、建築士会が社会的にも認められるような会になるように、役員及び会員の皆様と一つになって一生懸命努力する所存です。

会の運営に当たりましては、重点施策実行は元より昨年同様下記のとおり特に力を入れたいと思います。

◎建築士会の一般の人への認知度を高めること。

私たちの行っている活動や、日頃講習や研修を行うことで建築士としての資質の向上を図るために研鑽を積み、活動を広く一般の人にも知ってもらうための広報活動をする。

◎会員一人ひとりが建築士としての自覚を今以上に持つこと。

建築士の社会に対しての責任の重さを十分に理解して、社会貢献をする。

◎公益法人の組織をもっと活かしたい。

公益法人についてもっと勉強して、メリットを活かしたい。特に、寄付など協力を頂ける企業などの開拓等を行いたい。

◎会員の増強の推進。

・会の活動を理解して頂き、活動に参加して頂く会員増加を図る。

・会の活性化は委員会活動の活性化が必要と考えます。それぞれの委員会が責任を持ってふさわしい活動をすることによって、会の活性化を図ることを希望します。そうなれば、おのずと会員の増加も図れるのではないかと思います。

皆様にはこれまで以上のご協力をお願い致しまして就任の挨拶といたします。

第6回　善光寺薬師堂
（北宇和郡鬼北町小松）

文化財 . まちづくり委員会　委員長　花岡　直樹

建築史を習った人ならどなたも「和様」「大仏様」「禅宗様」と言う日本建築の様式を耳にしたことがあると思います。仏教伝来とともに朝鮮半島を経由して日本に入ってきた仏教建築が、気候風土や宗教観により変化を遂げ、日本独自の様式が奈良時代に確立しました。これが「和様」で、そのあと脈々と千年続くことになります。これに対して鎌倉時代に中国の宋から全く異なる二つの様式が輸入されました。これが「大仏様」と「禅宗様」です。（様式の詳細の説明は省略）

鬼北町（旧広見町小松）に建つ善光寺薬師堂は、南予地区で最も古い建造物で、国の重要文化財に指定されています。室町時代後半のものとされていましたが、昭和57年の解体修理の時の調査で、内陣天井板の受け桁に文明15年(1483)の墨書が発見されたことにより、これが裏付けられました。

雪景色の善光寺薬師堂

建物は桁行3間、梁間3間の正方形で、一重、茅葺きの宝形造となっています。先の修理前は瓦葺きでしたが、昭和33年(1958)以前の茅葺きに復元されました。手法は「禅宗様」です（以下「　」内が禅宗様の特徴）。組み物は、「下に角がなく円弧上になった肘木」による出組（一手先）で、柱上だけでなく柱の間（中備）にも組み物が置かれています。これにより組み物が連なって並ぶので「詰組（つめぐみ）」と呼ばれています。

内部は、従来あるべき柱をなくし大きな空間を作るために、「大虹梁」をかけその上に柱の上部にあたる「大瓶束」を乗せ屋根組を支えています。中に安置されている厨子も純粋な禅宗様で作られていて、附（つけたり）として薬師堂と合わせて指定を受けています。「詰組」で「長刀反り（なぎなたぞり）」の美しい屋根を持った秀作と言えると思います。

内部の大虹梁と大瓶束　厨子の華麗な屋根が見える

さて、板壁と茅葺きのこの小さな建物がもし火災に巻き込まれたら・・・、と考えるととても怖い気持ちになります。平成26年度には、早期発見と初期消火を目的に炎感知器、放水銃、易操作性消火栓（一人でも操作できる）などの防災設備が設置されました。竣工後は消防署だけでなく、地元の消防団も巻き込み消火訓練が行われました。火災はないに越したことはありませんが、もしもの時にはいち早い消火活動に役に立つことを願ってやみません。

地元消防団を巻き込んだ放水訓練

反射率から内装材をみる

宮地電機株式会社　照明・LED 担当室　田部 泉

事務所などの照度計算をする場合に内装材が判らないとき、私たちは内装材の反射率を天井は白色系として70%、壁面は淡い色系として 50%、床面は少し濃い色系として 30% で計算します。照明業界では通例ですが、なぜとは疑問に思っていませんでした。

室内に入って最初に見て感じる面は壁面であり、次に天井面、床面の順になるのではないかと思う。それぞれの面に使われている仕上げ材料（素材、色、明度など）が空間の雰囲気を決定づけているのではないかと思います。当然、設計者はそれを、今までの経験とコストで決めていると思います。
その仕上げ材料をその素材の反射率を考えて決めると、思った以上の雰囲気のある空間になるのではないかと思います。

日本人の肌の平均反射率は約 50% である。自分で肌の色を感じるときは、一般的にはひとは「手の甲」で判断します。隣のひとは顔で判断する。余計ですが、明るさは?と質問するとひとは「手のひら」を見て明るさを確認します。それは、いつも見慣れているからだと思います。それと同じようにいつも見慣れている「手の甲」を見て感じて他の材料を無意識に感じているかも知れない。

一般的な和室においては、一番に影響を受けやすいのは壁面です。反射率約 50%に近い材料を用いて、天井面はそれよりも反射率の高い反射率 50%～ 70%、床面は畳などで 50% ～ 60% の材料や仕上げを考慮して用いると落ち着くのではないかと思います。
古くから建築材料の素材と反射率を経験で心地よい細工をして過ごしてきている。茶室などでは反射率の低い材料を用いていますが一部に竹など反射率の高い材料を少し使いながら光の反射を取り入れている様子もよく見ます。

最近の住宅は壁面や天井面も反射率の高い壁紙などで室内を明るく見せているケースも多くあります。窓ガラスや磨きのある大理石やステンレスなど反射率約 80%の高い材料は、豪華で緊張感のある空間になりますが、落ち着きのある室内にするにはカーテンや家具などをうまく調和させることを勧めます。
また、RC（コンクリート打ち放し）などの建築も、無機質な感じですが、実は反射率は約 55% 位なので意外と落ち着く素材でもあります。建築の内装を考える場合は、使い方を考えて、目的に合った反射率の材料を選択が大切と思えます。

1 材料反射率[1]

		材料	反射率(%)
正反射性材料（蒸着入り）		銀面	93
		アルミ電解研磨面	90～95
		ガラス銀面（アルミ合金）	80～85
		水銀、アルミ	70～75
		金、クローム、ニッケル、白金、すず	60～70
		銅、鋼、タングステン	50～60
		すず箔、銀箔、アルミ箔	20～30
		透明ガラス	10～12
		黒色ガラス	5
		水面	2
拡散性材料	金属およびガラス	炭酸マグネシウム（特製、反射率基準）	98
		硫酸バリウム	93
		酸化アルミ	80～85
		アルミラッカー	60～70
		つや消しアルミ	60～80
		細面クローム	50～60
		亜鉛引鉄板（新）	30～40
		乳色ガラス（全乳）	60～70
		スキガケガラス	30～40
		すりガラス、型板ガラス	15～25
	塗料	白色ペイント、エナメル、琺瑯	70～85
		淡色ペイント一般	30～70
		濃色ペイント一般	15～40
	紙類（壁紙、襖紙、その他）	白紙、事書	85～91
		白紙、吸取紙、ケント、島の子	70～80
		白紙アート紙	60～65
		白紙粗製（障子紙）	30～50
		トレシングペーパー	20～25
		新聞紙	40～50
		淡色壁紙、襖紙一般	40～70
		濃色壁紙、襖紙一般	20～40
		パトロン紙	25～35
		黒紙	5～10
		黒紙（色黒用）	1～5
	衣類	白布：フランネル、富士絹	60～70
		白布：木綿、麻	40～70
		淡色カーテン	30～50
		トレシングクロス	25～30
		濃色トレシングクロス	20～30
		黒布：服地	7～15
		黒布：木綿、シュス	2～3
		黒布：ビロード	0.4～3
	木材および建築木部	桐（新）	65～75
		檜（新）	55～65
		杉（新）	30～50
		杉赤目板（新）	25～35
		クリヤラッカー明色仕上面	40～60
		色付ラッカー、ニス	20～40
		外壁板張（新）	40～55
		外壁板張（古）	10～30
		外壁板張（オイルステイン）	10～20

		材料	反射率(%)
拡散性材料	石材および建材	白色タイル	70～80
		淡色タイル	50～70
		白色大理石	50～60
		淡色人造石	30～50
		淡色瓦葺（新）	30～40
		石材一般	25～50
		赤煉瓦（新）	25～35
		コンクリート、セメント瓦、淡色スレート	20～30
		濃色タイル、濃色人造石、同瓦、同スレート	10～20
		ねずみ色絨平石	5～15
		赤煉瓦（古）	5～10
		白漆喰壁（新）	75～85
		黄大津壁	70～75
		白壁一般	55～75
		茶大津、淡色壁一般	40～60
		和風砂壁（茶ほか淡色）	20～40
		濃色壁一般	15～25
		和風砂壁（緑ほか濃色）	5～15
	床材料	畳（新）	50～60
		淡色ビニタイル、アスタイル	40～70
		濃色同	10～20
	地面	砂利、コンクリート、舗石	15～30
		アスファルト舗装	15～20

2 マンセル明度と反射率[2]

明度	反射率(%)	明度	反射率(%)
10	100	6	29
9.5	88	5.5	24
9	77	5	19
8.5	67	4.5	15
8	58	4	12
7.5	49	3	6
7	42	2	3
6.5	35	1	1

（参考文献）
1) 建築学体系 22 室内環境計画（昭和44年）
2) JIS Z 8721 1993 色の表示方法－三属性による表示

■各種材料反射率【参照：panasonic】

竹の七不思議（その１）

山田竹材　山田　清昭

日本人にとって、竹はもっとも身近な植物のひとつであるが、その生態は他の植物と比べてユニークで、いまだに解明されていない謎が多い。

○生長の速さ

「雨後の筍」という言葉があるように、その繁殖力の強さと成長の速さは、他の植物と比較にならない。例えば国内の竹で最も大型のモウソウチクは、わずか二か月ほどで高さ 20 メートル、直径 15 センチほどにも生長する。筍にいたっては、24 時間でマダケは 121 センチ伸びたという記録があり、他の樹木類がこれだけ伸長するには 30 ～ 40 年もかかるので、竹の伸長率がいかにすごいと言うことがわかる。

なぜ竹はこんなに生長が早いのか？それには３つの要因が考えられる。
第１に、竹は節ごとに生長点があり、大小にかかわらず１本の竹には 60 ～ 70 の節がある。これらの節は生長するにつれて数が増えるのでなく、筍の時から同じ数の節を持っている。それぞれの節の真上には細胞分裂する生長点があり、「生長帯」という輪をつくっている。この各節の生長帯が同時並行的に細胞分裂して一斉に伸びるため、節と節の間隔が広がって一気に丈が伸びていくのである。

第２に、地下茎を通じて母竹から筍に養水分が送られる。それにより、母竹の葉は紅葉して落葉する。これが「竹の秋」と呼ばれる現象である。

第３に、筍の頃にはよく雨が降り、筍の季節を「筍梅雨」ということもある。この３つの条件が竹の驚異的な伸長の秘密なのである。

○竹の中はなぜ空洞？

竹類のほとんどは、竹稈の中に穴があり、中空になっていることが大きな特徴である。
木生シダやヤシ類など、古く地球上に出現した樹木を見ると茎は皮層と中心部の髄質からなっている。竹稈の中に穴ができる仕組みは、この中央部の髄細胞が早くから生長を停止し、隔壁ができていることによるものである。
もし、この穴の中に稈をつくる竹材を詰め込んでみると、稈の高さは約３分の１の 10 メートル以下になってしまう。この高さでは現在の生育地では日光を受けられず、今日のような大繁殖は望めない。

○筍には雄と雌がある。

竹に生物学的な雄雌があるわけではない。しかし、中国や日本、東南アジアでは俗に竹や筍を雄と雌に区別する習慣がある。
例をあげると、メダケやカンザンチクなど一節から多くの枝を出す竹を、子どもを多く産む女性に見立てて「女竹」と言い、一節から２本の枝しか出さないモウソウチクやマダケ、ハチクなどは稈も高く、豪壮に伸びる様子から「男竹」と呼ぶことがある。
また食用にするモウソウチクの筍のうち、先端が少し曲がり気味で、竹の皮が柔らかく毛の白いものが「雌筍」。紡錘形で先端がとがり、下部から赤い根を出し、質が堅く表面に黒い短毛が生えたものを「雄筍」と言っている。

生かすことで生かされる

今治支部　橋詰　飛香

生かすことで生かされる。それが私の建築なのだと、よく思う。

昔ながらの家づくりは自然の素材でほぼ家の多くが構成される。そして随所に使われる素材が如何にその役目に適した素材であり、試行錯誤され吟味された結果用いられるようになったか、先人たちの智恵の深さにいつも驚かされる。先人達が長い歳月をかけて築き上げた叡智がそこにある。

屋根瓦の下、防水用に使われる杉皮だが、100 年前の古い屋敷の解体の際にまるで昨日今日葺いたばかりの様な杉皮にお目にかかった。防水紙が無かった古臭い時代の産物と馬鹿にする人がいそうだが、しかしこの過酷な屋根の上で 100 年も耐えその役目を果たしてきたというのは事実である。果たして現代の防水紙がどれほどの耐久性があるのかと言うと疑わしいが、この杉皮利用が 100 年 200 年それ以上を念頭に置いた確たる計画のもとで使用されたものは確かだと言える。

そう・・”杉皮”と言えば杉が立木の状態で 100 年 200 年と身に纏うコートの様なもの。雨風や強い日射し、虫や腐りから自らの身を守るために杉が造りあげた素材です。1000 年生きる杉もあるのだから、屋根という過酷な条件下で腐りにくく虫にも強いこの素材に着眼した先人たちに感服。

（パッシブな通気機能を備えた杉皮は、合理的かつ先進的な素材のよう）

そしてさらに杉皮の施工中に気がついた事。それは太陽の熱によってパッシブのように受動的に通気する機能が杉皮に備わっている事を発見したのだった。日射しのキツイ日は杉皮が反返り、そうする事で野地板の蒸れが排出され、日が沈む夕刻になれば杉皮が密着して外気の侵入を防ぐという、まさに自然の力を利用した通気機能が杉皮にあった事に気がついたのでした。

現代での家づくりにおいて結露で野地板が腐るという事を聞くたびに、湿気や蒸れの排出をこの杉皮が自動的に行っている事に腰を抜かす様な想いがします。たかが杉皮されど杉皮。そしてどこまでも現代人の私たちの理解を超える世界で物づくりが行われていた事に脱帽です。先人たちの智恵の深さ、素材の性質を読み適材適所に無理のない形で生かし使って行くという事に尊敬の念が絶えない私です。そしてもっと知りたいと思うのです。私達現代人は自然から離れすぎて、自然のことや素材のもつ性質や機能など肌で感じることが少なくなってしまった・・。そしてそこにあった恩恵も忘れてしまっているのではないか・・。

こういった智恵の結晶が昔ながらの家づくりそのものであります。事ある事に先人たちの生きる智恵を学ぶ私ですが、自然に逆らわず自然をうまく生かすことで恩恵を得ていくという思想。この思想そのものに魅力を感じてなりません。そこにはどこか日本の精神性を感じます。力ずくで自然を征していくという思想でない日本的な方法。「生かす事で生かされる」大きな和の国がもつ思想であり、私は日本人たる所以がこの発想をとても心地よく感じるのです。

昔ながらの家づくりは、まさに和の思想をもった和の家だと感じます。素材を生かし、人を生かす事で、喜びの循環が始まると・・。昔ながらの家づくりの現場でこういった循環が巡り始めるのをこの目にした時に、やっぱり私の建築はここにあるのだと実感したのでした。

山野草の女王（山芍薬）～イワガラミ

松山支部　安藤　雅人

ヤマシャクヤク

隔月の連載なので、取り上げる花が限られます。天邪鬼なので、春爛漫の候は別の機会に紹介します。

丁度５月の連休頃に皿ケ峰が春の花盛りを迎えます。シコクカッコソウ（四国郭公草）、ヤマブキソウ（山吹草）、イチリンソウ（一輪草）、タツナミソウ（立浪草）、イワカガミ（岩鏡）等、枚挙に暇がなく、ピンク、黄、白、紫、５枚弁、４枚弁、筒型、箒型と、色も形も豊富です。

その中でも、クマガイソウ（熊谷草）とヤマシャクヤク（山芍薬）が、大きくて目立ちます。

クマガイソウの名は、源平合戦で活躍した武将の熊谷直実（なおざね）が背負っていた母衣（ほろ）に由来します。大きく膨らんだ花が、リュックサックのようです。

ヤマシャクヤクは、大きくて容姿が美しく、山野草の女王と呼ばれています。通常は、素朴な山野草を改良して園芸品種を開発しますが、ヤマシャクヤクは、山野草でありながら、完璧な美しさを誇っています。

ハコネウツギ

次にウツギ（空木）の仲間を紹介します。茎がストローのように中空であることが名の由来です。ウツギと名のつく草木はとても多く、実は、ウツギ（卯の花）等のユキノシタ科ウツギ属、ノリウツギ等のユキノシタ科アジサイ属、タニウツギ、ハコネウツギ等のスイカズラ科タニウツギ属等に分かれています。似た雰囲気ですが、スイカズラ科のものは茎に芯があります。

山野草から、園芸種まで、様々の姿形のものがあり、庭木としても、人気があると思います。ハコネウツギ（箱根空木）とニシキウツギ（二色空木）は、一見では区別できないほどそっくりです。良く見ると、花冠がラッパ状なのが、ニシキウツギ、急に膨らんでU字型なのが、ハコネウツギらしいです。これらの花は、最初は白くて、日が経つにつれて、徐々に、赤く変色します。一本の木の中に、白、淡いピンク、濃いピンク、赤の花が混じり合って咲くさまは、とても楽しくて可愛らしいです。

初夏を代表する花は、アジサイ（紫陽花）でしょう。

色鮮やかな西洋アジサイも好きですが、より素朴なガクアジサイ（額紫陽花）や、ヤマアジサイ（山紫陽花）が好きです。愛媛の山は、ヤマアジサイの宝庫です。アジサイの花びらに見える部分は、本当はガク（萼）の変化したもので装飾花と呼ばれています。細い茎１本当たりに装飾花が４枚ずつ付くものを見慣れていますが、２枚ずつのものもあります。

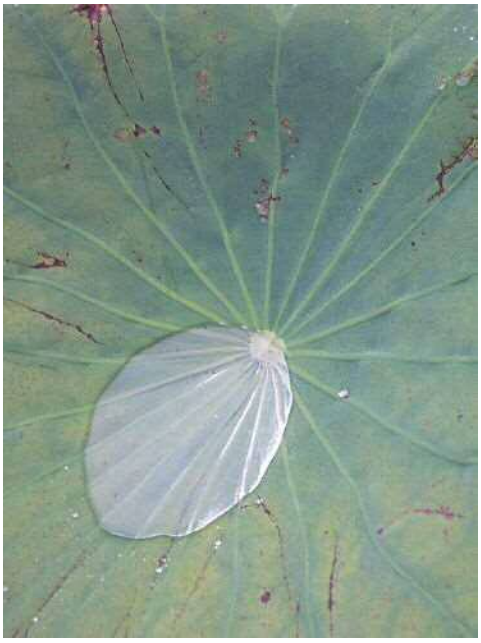
一番大好きなアジサイは、イワガラミ（岩絡み）というもので、細い茎１本当たりに、大きくて、真っ白な装飾花が１枚だけ付くという不思議な姿をしています。また、名が体を表し、大きな岩や、高木に絡みつき、天に向かって伸びるさまが豪快で野趣があります。装飾花がハート型に見えることもあり、山中で、この花を見つけると、とても幸せな気分になります。

イワガラミ

光る石

松山支部　玉乃井　公和

来る日も来る日も一様のグレーに覆われた梅雨空のうっとうしさも、田んぼの稲には恵みの雨かも知れませんが、それも程を過ぎれば、人にとっては雨に打たれ続けて枝を重く垂れた草木のような、恨み節にも似た気分になってきます。
洗濯物に止まらず、気分さえも湿気を帯びてなかなか乾かない。ただ、そのようなうっとうしさの中にあっても、わずかに視線を下げて見つめてみれば、その水気のゆえに静かに光る美しいものもあります。



その、雨にぬれて光るものとは石です。それも薄くスライスされて床や壁に貼ってあるような、加工された石ではなく、川の中を流され、転がされてきた自然のかたちそのままの石です。
その光り方は石の種類によって違ってきますが、例えば、砂岩のようなあまり光らない石であっても、水を吸った“光り方”にはまたそれなりの味わいがあります。

こうした石と水とのたたずまいは、これまでも年毎に我が家の庭で繰り返されてきた筈ですが、その美しさや安らぎに、これまでずっと気付かずに来たのは、梅雨を体感するうっとうしさの怨み節にばかり気を取られ、かき消されて、見えていなかったのかも知れません。ここに来てやっとその光に気付いたのは、たぶん少しばかり心が落ち着いてきた年のせいだろうと思います。

年を取り、自然を見る目の機が少し熟して、水っぽい季節の中で見出した、この石と水との親和性は、その感覚的な捉え方だけではなく、実は“法則”としても随分古い時代からありました。

それは古代中国の陰陽五行思想というものの中にあります。この陰陽五行の五行とは、木．火．土．金．水の五つの気のはたらきのことですが、この五つは季節も表しています。
木の気は春、火の気は夏、土の気は土用（各季節と季節との間にある約１８日間の、季節が移行する期間）、金の気は秋、水の気は冬、となっています。
この五行の「相生の理」というものの中に、石と水との親和性を見てとることができます。（因みに石は「金」気になります。）

即ち「相生の理」とは、木は火を生じ（木生火）、火は土を生じ（火生土）、土は金（鉱物．金属類）を生じ（土生金）、金は水を生じ（金生水）、水は木を生じる（水生木）というサイクルのことです。このサイクルの中の「金生水」の理に、石と水との親和性が見てとれます。
「金生水」の理については、民俗学者．吉野裕子先生の

説明によれば、

「金生水は説明の根拠が求め難いが、空気中の湿度が高い時は、金属の表面に水滴が生じ易い。金生水の所以と思われる、」（陰陽五行と日本の民俗）
とあります。

付会すれば、水に光る石の美しさに遅ればせながらも気付いた私の感覚の裏付けには、このような古代からの“法則”があったということです。
さらにはロマンとして眺めてみれば、あの水に鈍く光る静かな落ち着いた石の光は、そうした古代からの伝言のようにも感じられます。
と、ここまでこじつけてみると、自分でもさすがに度が過ぎていることが分かります。

それにしても、石と同じく“金気”であるところのコンクリートと水との取り合わせに、これほどのロマンを感じないのは、私だけの感覚に過ぎないのでしょうか。
私にはこれまでに、「雨に濡れそぼつコンクリートの肌が美しい」、などと感じたことがないのです。
コンクリートと水とのあいだにロマンが生じないのは、コンクリートが人工物であるがゆえのことなのか、それとも面として見える面積が大き過ぎるせいなのか、或いは単に私の目がその良さを見届ける能力がないだけのことなのか、何れであるのかは分かりませんが、コンクリートと水とのあいだには「金生水」の理は、うまく働いていないように感じられます。

この私の“コンクリート感”とは何の関係もありませんが、コンクリートについて建築家ルイス．カーンは、こんな言葉を残しています。

もしコンクリートを扱うなら、自然のオーダーを知らねばならないし、コンクリートの本性、つまりコンクリートは何であろうとしているかを知らねばなりません。コンクリートは本当は花崗岩になりたいのだが、その思いをとげられずにいます。
（ルイス．カーン建築論集　　鹿島出版会）

果たして、コンクリートの思いはとげられるのでしょうか。

陰陽五行思想の“法則”からすれば、「金生水」の「相生の理」の続きは「水生木」となり、木気の表象するものは、季節ならば春．方位は東．色は青を表わしており、水気が生じさせるものは、“青春の気”を生じさせることになります。

そのように見てみれば、料理屋さんなどで打水された、敷石のみずみずしさに感じさせられる、あの落ち着いた心地好い気分の高揚感は、この「金生水」「水生木」の「相生の理」の“仕掛け”が、うまく功を奏しているのではないか、などとまたまた強引なこじつけをしてひとり悦に入っています。

梅雨の水気に“光る石”。
その気になって目をやれば、こんな“光りもの”はどこにでもあるのかも知れません。

平成 28 年度　愛媛県建築士会 松山支部、理事会・通常総会報告

松山支部　支部長　赤根良忠

平成 28 年 4 月 22 日（金）

於：松山市大街道伊予鉄会館

平成 28 年度第 1 回理事会が開催され、総会への議案提出事項、27 年度事業・決算並びに支部功労者表彰・感謝状贈呈者の決定の後、引き続き支部総会が開催されました。

第 1 回理事会にて総会上程の議案審議、今年度は役員改選期にあたり役員選考委員会での審議状況並びに平成 28・29 年度の役員案が示され審議の結果提示された選任案にて総会に諮ることとなりました。

その他議案では功労表彰・感謝状贈呈者も提案の通り承認され総会での表彰の運びとなりました。

続いて支部総会では、黒田副支部長の開会宣言・司会にて始まり、議案審議が行われました、規約により議長に支部長が当たり、議事録署名人に　和田・久保理事を選任、1 号議案平成 27 事業報告（支部長）2 号議案同年収支決算の報告（大西松山支部常任理事）による報告に引き続き小原監事よりの監査報告がありこれらの議案に関連質疑を求め、承認を諮ったところ全会一致で承認された。3 号議案役員改選については直前理事会での承認案を提示された役員案にて全会一致で可決された。

続いて、4 号議案平成 28 度事業計画案（支部長）5 号議案同年収支予算案（大西松山支部常任理事）報告が一括上程され、関連質疑を求め、これらの両議案についても全会一致で承認された。

功労者表彰は、羽田快昇・二宮初子・三好欣尚・宮内理・清水浩氏にまた感謝状贈呈は㈱井原工業松山支店・㈱フジケンエンジニアリング一級建築士事務所様にそれぞれ贈呈されました。

総会に引き続き来賓の方々を交え烏谷活性化委員長の司会により懇親会を行い、支部長挨拶、来賓の池内誠喜愛媛県松山地方局建築指導課池内誠喜課長の祝辞のあと高橋浩一郎松山支部相談役の乾杯にて、しばし歓談親睦を深め平成 28 年度建築士会松山支部通常総会行事を無事終了しました。

「建築と雨水活用の可能性」を考えるセミナー報告

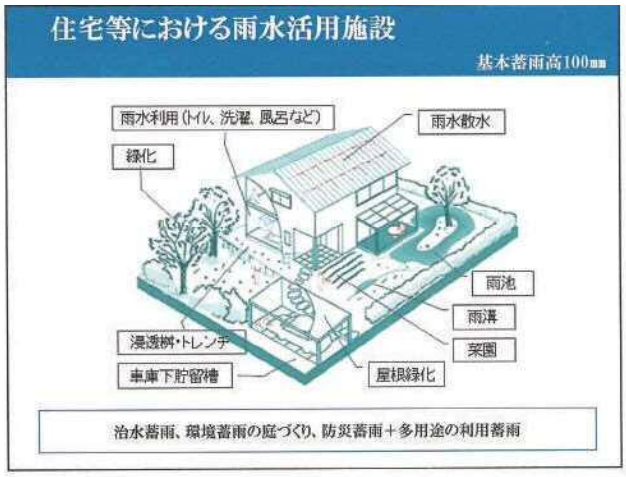
女性委員長　大塚　美由紀

日時　平成28年２月６日（土）
場所　愛媛県林業会館　中ホール
参加人数　20名（会員13名、雨水楽舎７名）

雨水活用についての取り組みをされている「雨水楽舎」と女性委員会との共催セミナーの報告です。

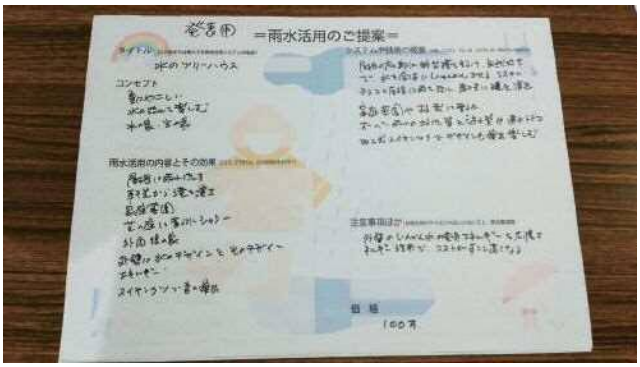
今回は二部構成での開催でした。

前半では（公社）雨水貯留浸透技術協会の屋井裕幸氏に「雨水活用の技術と事例」をテーマに、㈱日盛興産（エコショップ節水村運営）の日高規晃氏に家庭用雨水タンクの普及についての取り組みについてそれぞれ講演して頂きました。講演では「雨水活用と蓄雨（ちくう）」について実例を紹介しながら教えていただきました。「蓄雨」とは、雨水活用のために雨をとどめる事で、「防災蓄雨」「治水蓄雨」「環境蓄雨」「利水蓄雨」で構成されます。



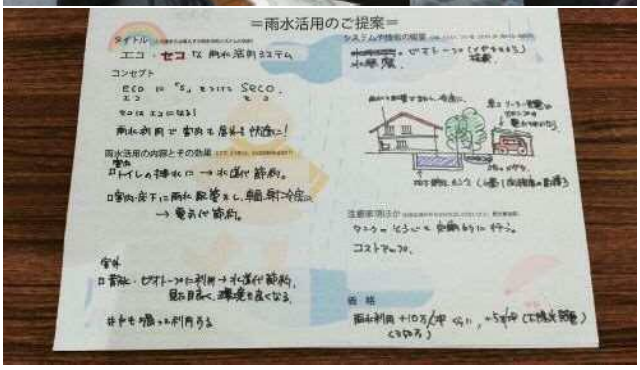
後半はワークショップ「雨水活用建築を考える」を行いました。松山市内に戸建住宅の新築を検討中の30代後半夫婦（＋子供２人）に雨水活用の提案をしていきます。

テーマは「雨を感じる、親しむ家」

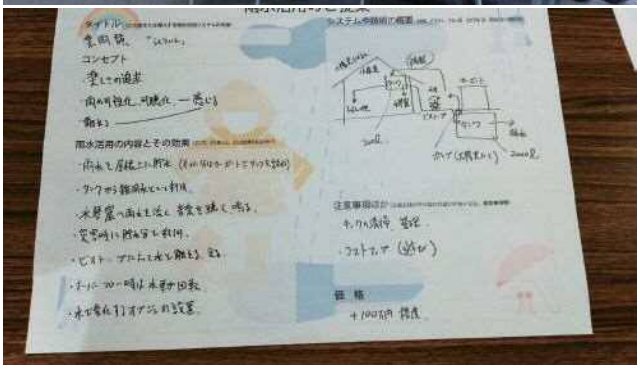


【提案１】水のツリーハウス

参加者は３つのグループに分かれて意見交換しながら提案をまとめて最後にプレゼンを行いました。雨水楽舎の方が仮想夫婦として、それぞれの提案に意見や質疑をしながら、採用プランを決定しました。



【提案２】エコ・セコな雨水活用システム



【提案３】楽雨韻

ちなみに、採用されたのは【提案１】水のツリーハウスでした。「雨の見える化」として屋根や外壁に雨が流れる仕掛けで雨を楽しめる事が決め手でした。

文化財街づくり委員会研修旅行
重要文化財安岡家住宅の保存修理現場の見学．他

文化財・まちづくり委員　峰岡　秀和

前回までのあらすじ

文化財・まちづくり委員の高知県へ一泊二日の研修旅行、一日目は嵐の高知城見学、文化財級のカツオのたたきを堪能し、最終二日目は重要文化財安岡家住宅の保存修理現場見学を行いました。

畠中家住宅

研修会二日目は一日目とうって変わって非常に穏やかな天気となりました。
次の目的地は安岡家から東へ、海岸線を車で 30 分ほど走ったところにある､高知県安芸市の畠中家住宅です。そこにはとても珍しい建物が付属しているとのことですが……目に飛び込んできたのはなんと「時計台」でした。

制作したのは、当時の大地主であった畠中源馬。アメリカから取り寄せた時計を分解・組み立てし、独自で時計を作り、時計台が完成したのは明治 20 年といわれています。左右の建物の間にある、続きの建物の千鳥破風に乗っかるようにそびえる時計台は、田園が広がる当時の土居村でひときわ目立つ存在だったのではないでしょうか。

三面ある時計は､当初すべて稼働していたようですが、故障のためでしょうか、のちに正面 1 か所だけとなったようです。そのためかどうかはわかりませんが地元の人からは「野良時計」の愛称で呼ばれ親しまれているようです。

安芸市土居にある畠中家住宅「野良時計」

瓦の街、安芸市

その野良時計を背に土居城址を目指して歩きます。途中、独特の瓦の葺き方をした塀を見かけました。通常の桟瓦は一定方向の葺き方ですが、高知県では風の方向や吹込みがあるので途中から逆の方向になっているそうです。

花岡委員長の手のあたりから桟瓦の向きが逆になり、左右対称となっている

また、散策中によく見かけたのが瓦でできた塀です。瓦の産地だからなのかなとその時は不思議に思うくらいでしたが、帰って調べてみるとやはり瓦の産地だったようで、しかもその技術は江戸時代に菊間からもたらされたという事でした。意外な所で愛媛県との接点を発見することができましたが、事前にもっと調べておけばよかったと猛省しました。

壁一面に瓦が使用されている塀「瓦練塀」

建物で最も特徴的だったのは妻壁などに取り付けられた「水切瓦」といわれるものです。これは高知市内だけでなく、県内いたるところで見られるものでした。
台風など風雨の被害が甚大なこの地域では、切り妻壁などの漆喰壁を守るために、瓦と漆喰だけで作られた小さな庇が設けられています。それが水切瓦と呼ばれるもので、近世ではその性能だけでなく、飾り付けることにより富の象徴とされていったようです。

切り妻の壁部分に見られる「水切瓦」

その後、武家屋敷や安芸城址（石垣・堀などが現存）を散策し、研修旅行は終了しました。

おわりに

今まさに行われている重要文化財の保存工事を見学させていただいたことは、保存意義だけでなく、技術的な部分を様々な角度で見ることができ、大変勉強になりました。また研修中はより詳しい視点からの説明があり、幾度か訪れていた高知城でも新しい発見をすることができ、大きな財産になりました。

最後になりましたが、研修資料を作成するだけでなく、様々な場所で説明をしてくださった花岡委員長、お忙しい合間を縫って安岡家住宅の説明をしてくださった文化財建造物保存技術協会の辻田所長に深く感謝申し上げます。

わかくさ珈琲

今治支部　叶　貴美

今治支部の今井このみさんよりバトンを受け取りました、叶貴美です。突然でびっくりしましたが、大好きな仲間からのバトンです。大切に繋ぎます！

はじめに少し自己紹介を。現在、松山市若草町で「わかくさ珈琲」という喫茶店の２階で設計事務所を営んでおります。その喫茶店、わかくさ珈琲も経営しております。私もスタッフも、みんなエプロンを身に着け、パソコンに向かい、図面を描きながら接客もしております。

喫茶と事務所入口は同じ。　店内の大きな木窓。

場所柄、ゆっくりした喫茶店なので、ほどほどの来客数。図面と向き合う時間もさほど邪魔されないのが日常ですが、時には予想外のお客さんで賑わい、苦しい日もあります。そんなこんなで、７年目になりました。

図面に追われてくると、なんで喫茶店なんか始めてしまったのだろう・・・と苦心しますが、続けるには理由があります。やはり、喫茶店をやってて良かったと思うことが大きいからです。毎日来てくれるお婆ちゃんの笑顔、美味しかったありがとうの一言、観光客や外国人のお客さんとの出会い、あとはここで働く私たちの環境がすごく良いことです。

毎日、いろいろありますが・・・それを跳ね飛ばす楽しさが喫茶にはあります。設計事務所と喫茶店の組み合わせ最高！おススメです。みなさんもいかがですか？設計事務所が営む喫茶開業のご相談お受けしますよ～！笑

自分のことが長くなってしまいましたが、ついでに近況報告です。昨年末に次女を出産して二児の母になってしまいました。仕事と育児と・・・正直少し戸惑いましたが、二人目というのは何と適当なんでしょう！子供にパワーもらって仕事も頑張れてます。

住んでいるお寺の境内より朝倉を眺める。

この７年は、本当にあっという間で、突っ走ってきました。きっとこのまま１０年経ちます。そこで、そろそろ次の目標を掲げようと思っています。今までは、自分のことをやってきましたが、そろそろ歳も大人になってきましたし、地域のため、社会のため、子供たちの未来のために、建築士会を通して貢献していけたらなと思っています。今まで、なかなか建築士会の活動にも参加できていないのですが、また少しづつ参加していきたいです。

私は、出会ったのがたまたまお坊さんで、お寺に嫁ぎました。縁もゆかりもない世界に飛び込み、これもまた１０年経ちます。寺嫁としては、まだまだ何も出来ないのですが、せっかく何百年と歴史のある建物と寄り添って生活しているので、歴史ある建物を勉強して保存活動などのお手伝いが出来たらなと思っています。寺嫁としての修行も、もちろん頑張らないといけないんですが。

次回は、同じ設計事務所を卒業し、笑顔がキュートで尊敬している建築士さん、松本友さんです。

宜しくお願いします！

結局は、自己紹介です。

松山支部　岸　孝徳

はじめましての方も、お久しぶりの方も、門屋組の丹生さんからバトンを受け取りました、父親と二人で細々と構造計算を中心に設計事務所をやっています、岸と申します。よろしくお願いします。

何を書けばいいのか全く浮かんできません。３月に嫁さんがけんちくの輪を書かせてもらい、丹生さんにバトンを渡したと聞いた時は、もしやと思いましたが・・・。連絡が来た時は、焦りました。（笑）

書かない訳には行かないので今回は、結局のところ自己紹介をさせて頂こうと思います。

父親が設計事務所をやっていたため、小さいころから図面・製図台・計算書と設計はどんな事をする仕事かは理解していたつもりです。高校時代は、物理の先生になることを夢みて、大変そうな建築の仕事には絶対に関わらないつもりでいました。ところが、東京にある大学の建築学科に合格してしまい、建築の道へと・・・・。

学生時代は、勉強よりバイトと遊びに明け暮れたような気がします。建築よりバイトの仕事に魅力を感じ就職活動を全く行わず卒業後は、建築とは関係ないイベント会社に就職。千葉県柏市で暢気に生活していました。

25 歳の時、会社の倉庫で怪我をしてしまい、２ヶ月間の入院。その時、両親から愛媛に帰ってきてくれと言われやむなく帰郷。今、勤めている岸建築設計事務所の一員となりました。（笑）

帰ってきた当初は、大学で勉強したこと（勉強したかな?）をすっかり忘れていたため、何もできない状態。鉄骨平屋の伏図を一枚書くのに２週間以上掛かっていたような気がします。そんな状態なので、お給料もろくにもらえず、昼は事務所でお手伝い、夜は郵便局でバイトとなかなかハードな生活を３年ほど送りました。

まだ、この時点では愛媛に帰ってきたこと（建築に関わったこと）を後悔していたような気がします。

縁あって高校時代の同級生とお付き合いすることになり（今の嫁さんです。）、その頃から設計をする楽しさ、計算をする面白さに気がついてきました。約６年前に嫁さん（当時は彼女）が先に一級建築士に合格したおかげで、男としてのプライドに火がつき、なんとか一級建築士も合格することができました。

今は、結婚もでき、娘も生まれ充実した生活を送っています。

大好きなサッカーも頑張っています。今所属しているチームは県リーグ１部のＣＬＵＢ　ＭＡＴＳＵＹＡＭＡというチームです。自分はほぼ試合見に行くだけですが！応援してやって下さい。建築士会でフットサルチームつくりませんか?

ＣＬＵＢ　ＭＡＴＳＵＹＡＭＡ集合写真

最近の悩みは、建築士会の行事にまったく、参加できないこと。今後は、なるべく！！！?参加するように頑張って行きたいと思います。（笑）

皆さん、仲良くしてやって下さい。

簡単ではありますが､自己紹介を終わらせて頂きます。これからも、皆さん宜しくお願い致します。

設計させてもらった弓道場

この原稿の提出期限が５月２６日まで！！今の時点で、次にバトンを渡す人が見つかっていません。（笑）９月号で次の方が分かると思いますので、乞うご期待！！

ありがとうございました。

遙かなる日本百名山
近くて遠かった、屋久島宮之浦岳

西予支部　松山　清

屋久島・宮之浦岳 1936m へ初めて登頂を果たしたのは、今から 10 年前の 2007 年の GW。海から一気に宮之浦岳山頂までそそり立つ屋久島は、亜熱帯から寒帯までの気候が凝縮した“洋上のアルプス”と言われ、日本最南域の高層湿原や奇岩などが織りなす自然の美しさに大いに期待はしていたものの、林芙美子が「浮雲」の中で「屋久島は月のうち、35 日は雨」と表現するほど雨の多い島なので、無事に山頂までたどり着けるのだろうかという一抹の不安もありました。

当時、松山空港から鹿児島までは 36 人乗りのプロペラ機が一日１便、一方東京からは 20 便もあり、しかも運賃は東京からの方が遙かに安いという不遇でしたが、山中テント泊２回の日程を考えると屋久島まで飛行機を利用するしかないということになりました。実はその４年前に縄文杉まで行ったことがあるのですが、その時は鹿児島港まで車で行き高速艇で大波の海を屋久島に渡りました。山中で“らっきょう”のような大粒の雨に打たれ、日本離れした厳しい気候に驚いたのでした。

【宮之浦岳下山中、平石岩屋にて】

そのような心配を吹き飛ばすような快晴に恵まれ、宮之浦岳への縦走は淀川登山口からはじまり、花之江河・宮之浦岳・ウィルソン株・白谷雲水峡へのルートを歩きました。１泊目は淀川小屋、２泊目は高塚小屋のテント場にテントを張り自炊です。コース上に３つの無人の山小屋がありますが、混雑の心配があったのとテントの方が快適なので、テントで思いっきり屋久島の自然を満喫したわけです。

九州最高峰の宮之浦岳は、奥深い山でなかなか海岸からは見えない島の中央部にあり、２日目に青空の下にその姿を見たときは、とても感動的でした。屋久杉ばかりの印象が強い島ですが、宮之浦岳周辺は山頂部が屋久笹に覆われ、そしてどの山にも花崗岩の巨岩が山頂部に載っかっています。これは土が雨により浸食された結果、岩が山頂やその中腹といった部分に残されたのだそうのです。山頂への最後の登りは、周りにこの独特の風景が広がり、他には類を見ない貴重な自然の絶景を堪能できました。二日目は縄文杉のすぐ近くにテントを張ったため、じっくりと縄文杉と対話をしました。三日目はウィルソン株から大株歩道をトロッコ道沿いに小杉谷まで下り、もののけ姫の舞台のモデルとも言われる、苔の白谷雲水峡へ峠を越えて下山しました。

【高層湿原の花之江河】

コース上の山小屋は登山者にとって大きな安心感があり、小屋を利用すると比較的軽荷で縦走をすることができるし、天候悪化の際には避難の役割もあります。山小屋は建てるのも維持も大変ですが、自然を守るために現在急速に整備が進んでいます。私はこの頃から日本百名山を意識しはじめましたが、一人でも多くの人が山の素晴らしさを知って欲しいと思っています。

左上：淀川小屋
上：高塚小屋（現在は、改築済み）
左：新高塚小屋内部

新広報委員紹介

氏　名　渡邉　道彦
支　部　松山支部
勤務先　渡邉意匠 Design studio
ひとこと
偉大な先輩方の抜けられた後お役に立てるかどうか不安ですが若い世代からの声を届けられる役目として頑張りますので皆さん助けてください。よろしくお願いいたします。

氏　名　山本　晶子
支　部　松山支部
勤務先　㈱ダイキアクシス
ひとこと
なぜか広報委員会に出させていただくことになりました。私の出来る限り「いしづち」を広め、数多くの「いしづち」ファンを作る一助になればと思っています。皆様どうぞよろしくお願いします。

氏　名　大平　将司
支　部　伊予支部
勤務先　伊予市役所
ひとこと
不慣れで力になれないかもしれませんが、書き手と読者の橋渡しができるように「いしづち」の編集に関わりたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年６回発行となります。
（尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。）

「いしづち」の本年度の原稿締切日
平成 28 年　９月号（112 号）　　平成 28 年７月 21 日㈭

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。
※ １ページ写真込みで 2150 文字（25 文字 ×43 行 × 横２段）の WORD 様式を事務局で用意していますのでご活用ください。
写真は１ページ当たり３枚程度まで題名を付けて添付してください。
また宜しければ投稿者の写真（免許写真程度の顔写真）を添付してください。
会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。
（尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。）
この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしています。

「いしづち」編集委員会（士会事務局内）宛
― FAX 948-0061 ―

編集後記

中学生の時には、読書感想文さえもマトモに書けなかった私が言うのもおかしな話ですが、文章を書くということは、それまでに建築等の様々な分野で経験してきた中での自分の思いや考えなどを、もう一度再認識したり、また新たな発見をする機会にもなると思います。
この「いしづち」は、県下 30 の公立図書館にも配布させて頂いておりますので、一般の人達に読んで頂く機会もあるかと思います。
各分野の会員の方々におかれましては、それぞれの思いや考えなどを投稿して頂ければと思います。お待ち致しております。

今号から委員の顔ぶれが新しくなりました。「新しき酒は新しき皮袋に盛れ」。
ん?、どう見てもメタボで垂れた、委員長の“腹袋”が古過ぎるような。

（玉乃井　公和）

〈いしづち〉2016 ／ 7
平成 28 年７月発行
発行人　**会長　寺尾　保仁**
発行所　**公益社団法人　愛媛県建築士会**
〒790-0002　松山市二番町四丁目1-5
TEL（089）945-6100　FAX（089）948-0061
http：//www.ehime-shikai.com　E-mail：info@ehime-shikai.com
印刷所　明星印刷工業株式会社
情報・広報委員会・広報委員
委 員 長　玉乃井公和　　副委員長　大上　恵子
編集委員　越智　麻衣　　渡邉　道彦　　山本　晶子　　大平　将司